

<<東北魂>>を鼓舞する  
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005  
東京都東大和市高木3-315-1-2-2  
http://www.yumuyu.com/  
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

# 東北復興

Rising up, TOHOKU!

無料

## 第53号

毎月発行

創刊2016年(平成28年)10月16日 日曜日

2016年(平成28年)10月16日 日曜日

### 2020東京オリンピック 東北開催立候補の競技等と地域

立候補競技名	立候補地域	確定/未確定
サッカー予選	宮城スタジアム (宮城県利府町)	ほぼ確定か
野球/ソフトボール 予選	福島県 福島・郡山・いわきの各市・	未確定
ボート	長沼ボート場 (宮城県登米市)	未確定
聖火リレー	太平洋側被災地 特に宮城県石巻市はスタート地点を要請	未確定

東京オリンピックの東北開催競技等と地域候補

### 2020東京オリンピック 東北で実施する関連事業立候補

立候補関連事業名	立候補地域	確定/未確定
海外選手と地域住民 交流の「ホストタウン 構想」	仙台市をはじめとする東北 12市町村	未確定
復興の姿を映像で世界に発信	地域限定なし	未確定
東北伝統芸能や祭り 「文化プログラム」	地域限定なし	未確定
再生可能エネルギー を用いて製造した水素の燃料電池車への活用	福島県	未確定

東京オリンピックの東北で実施する関連事業立候補

## 今度こそ東北でオリンピックを!! 代替ボート競技場問題だけでない 東北の魅力を世界に発信しよう 遅くはない、積極的に誘致しよう

**再度迷走をはじめた  
2020東京オリンピック**

メイン会場の建設費の大幅超過問題、エンブレムの盗作問題などがようやく落ち着いたかに見えた2020東京オリンピックであるが、またもや問題出現である。総実行予算が、何と当初予算の約四倍の三兆円にものぼり、予算縮小のために競技場予算の見直し作業が再びスタートした。

そしてオリンピック競技のなかでもあまり目立たないボート競技が一躍脚光を浴びることとなった。

今頃になってというべきか、サッカー予選開催が有力視されている宮城スタジアムに続いて、ボート競技も東北で開催されるかもしれないというニュースが巷

を駆けめぐっているからである。こちらは、サッカーと異なり、予選だけではなく、ボート競技の、予選から決勝戦までのすべてが開催される点が大きく異なる。しかし、あまり話題にはならないが、東北での開催立候補競技は、ボートとサッカーだけではないことも再認識しておいて欲しい。(表参照)

また、競技のみではなく、オリンピック関連事業候補としていくつかの企画も存在することも銘記して欲しい。(表参照)

千三十八億円、第一次減額で四百九十一億円、実に七倍超である。そのため小池東京都知事が、開催まであと三年弱という時点で、急きよ競技場を東北に移動しようというのが騒ぎのもとであった。村井宮城県知事も積極的に、宮城県登米市にある長沼ボート場を推している。当然、この動きに対して異論も、反対もある。日本ボート協会の大久保会長は、長沼ボート場での五輪開催に難色を示し、その理由として、直線距離で東京・晴海の選手村からは350キロ以上、仙台からも50キロ以上離れており道路も1車線に近く、陸上整備や宿舎も相当必要になり予算的にも大変だという。さらに、水面は非常に良

いが、大きな湖の真ん中であって、両側に陸路がなく、この場合、世界的には自動車も走れる浮橋を走らせる必要があると競技施設そのものの問題点も指摘している。

さらに続けて、長沼を推す都政改革本部の主張は震災復興を中心に置くが、単に東北復興支援ということでは本当にワンポイントになつてしまい、将来のレガシー(大会の遺産)に全くならないとも言う。

選手宿舎に復興仮設住宅の転用という案も、説明も聞かずに反対されている。他の反対論のなかには、競技の国際中継のためには東京から登米市まで地下ケーブルを通さなくてはならないという、まことに時代錯誤の議論まである。ここまで来ると、冷静な議論というより、結論ありきの大屁理屈と言わねばならない。

この日本では見飽きたことだが、聞き飽きたことだが、当初の目的を変更し、なし崩しに続けた結果、そもそも最初はどういう話だったかを思い出せないというパターンがまたここでも示されている。

なぜ東京がオリンピック開催地に選ばれたのかを再度思い起こして欲しいと思う。

まず、開催地立候補にあたっては、復興の端緒についたばかりの被災地各県が、東京都の立候補に賛意を示したことで、国を挙げてのオリンピック誘致に拍車を

また大幅に超過した予算は誰が払うのかという議論も抜けている。

マスメディアも、政府の圧力を恐れてか、報道姿勢はへっぴり腰と見える。

**オリンピック誘致目的のひとつは震災復興を世界に示すこと**

かけた。そして、3・11から復興した日本、被災地を世界に示すということが事実上の目的となった。

しかし現実には、復興は一向に進まず、結果、復興し

ない被災地での競技などありえないという方向となつていったのではないか。

開催地決定のための最終プレゼンでは、安倍首相が「フクシマはアンダーコン



長沼ボート場・・・上空から



宮城スタジアム・・・サッカー予選会場



ボート会場代替候補 宮城県登米市長沼ボート場

## 2020東京オリンピック 前哨戦としての東北開催競技候補一覧

立候補競技名	立候補地域
超ロングマラソン(200km)	東北6県をまたぐコース
長距離自転車レース(500km)	東北6県をまたぐコース
トレイルランニング(山登りマラソン)	東北6県のどこかの山
アドベンチャーレース (山あり、沼地ありのサバイバルレース)	東北6県のどこかの山間部に設定

### 東京オリンピックの東北開催競技等と地域候補

「トロール(統御)される」として、国際的に放射能対策への決意も示した。これも実現しそうなものではない。この当初の目的を忘れ、不便だの、レガシーではないと批判する人たちの心持を再度たずねてみたい。オリンピックで来日する外国からのマスメディアもオリンピック観光客も、選手たちも、被災地復興の遅れについて質問し、現状を見れば落胆するのは間違いない。だから、東北を見せたくないというのだろうか。もし東北での開催がないとか、復興が不十分だということが世界にはつきり示されれば、ただでさえ地盤沈下している日本は、国際的にさらなる地盤沈下に見られるであろう。

再びの「奇跡の復興」は

実現できず、斜陽経済を抱えた小さな島国というレッテルは十分に想定される。**東北開催は当新聞の最初からの意向**  
当新聞は、東京開催が決まる一年ほど前から、「東北―東京オリンピック」と名称を変え、競技の一部を東北で開催することを提案してきた。(バックナンバー1・第3号―2012年8月16日号参照)  
紙面での提案だけでは不十分と、当時の石原都知事兼オリンピック招致委員会会長、東北6県の知事、東北選出の国会議員、東北の市町村長、東北の県議会議員などに働きかけた。直接の返答は一県のみであったが、趣旨は十分に届いたと自負している。

しかし、ここまでの成果は、サッカー予選開催が有力視されているのみ。あまりにも不十分すぎる。そのこともあり、今からでも遅くはないので、積極的に誘致に拍車をかけるべきと考える。  
村井宮城県知事も言うように、出来ない理由を並べ立てるのではなく、出来る方法を探せば良い。  
リオデジャネイロオリンピックでも、開催直前でも競技場工事が進まず、開催が危ぶまれるほどであったことを忘れてはならない。  
いまからでも日本なら必ず出来るはずだ。

### 東北独自でオリンピック前哨戦を開催する

東北の人々も、オリンピックの会場騒ぎに惑わされることなく、まったく別次元で、世界に東北をアピールするチャンス到来と考え、着実に実行企画を練るべきである。政府などを頼ってばかりではどうにもならないことは十二分に理解したはずである。

次はないと思われるような、今回のせつかくのチャンスを見逃すまい。後でどんなに後悔しても後悔しきれない時が必ず来るのは間違いない。

企画も予算獲得も自前でやるべきである。一般からの寄付募集という手段もある。

オリンピック関連事業としていくつかの候補が挙げ



東北の自然・・・白神山地



東北の郷土芸能・・・鹿踊り

られているが、それ以外でも、オリンピック前哨戦として、さまざまな世界的競技を行うのはどうだろうか(企画案・表参照)  
世界からたくさんの方がオリンピック前から東北に集合するのである。

**世界に東北をアピールするチャンス到来**  
他にも企画はひねり出せるはずだ。東北にはよそにはない魅力がたくさんある。まずは自然。青森と秋田にまたがる白神山地を紹介



東北の縄文文化(環状列石)



東北の郷土芸能・・・神楽

するのはどうだろうか。現在は少人数にしぼっての探索と聞くが、自然保護を重視しつつ、より多くの人に白神山地の魅力を見出せしてもらえる方法は見出せるはずである。また、日本には、世界最

古の遺跡ともいえるべき縄文遺跡が散在する。日本よりもむしろ海外の評価の方が高い縄文文化だが、これを見せない手はないし、縄文遺構をより魅力的に見せる工夫は必要だと思いが、そんなにお金がか



東北の縄文文化(縄文土器)



東北の郷土芸能・・・南部ばやし

かることもでもないと思う。当新聞でも取り上げた東北の郷土芸能や祭りは奥が深い。東北三大祭り以外にもたくさんさんの郷土芸能があり、祭りがある。これまでは、地域限定であり、地域の神社に付属す

る祭りであったが、もう少し外にも開放してはどうだろうか。単純に、観光資源としてビジネスとして開放するというのではなく、東北なりの、長い伝統に立脚した見せ方があると思うのである。

# 三陸酒海鮮会日本橋 は次回で最終回です 足かけ四年間、まことに ありがとうございました

三陸の海鮮を食べ、東北の地酒を飲んで、東京に居ながらにして、被災地を間接的に支援しようという非常にゆるい会として、足かけ四年間開催を続けてまいりました「三陸酒海鮮会・日本橋」でしたが、今年の12月1日を最終回として終



了することとなりました。大震災発生直後は、被災地の水産業も、酒造メーカーも、生産を元に戻すことに集中しており、とても消費拡大の努力まで手が回らず、生産も消費も同時に復

興させるという段階にはなく、生産は被災地で、消費は都市部でと、役割を分割した復興支援が必要だと考えました。そこで最大の消費地である東京において、回復しつ



つある生産物の三陸海鮮と東北の地酒を、わずかではありますが、消費して、被災地支援に関わろうと考え、この会を立ち上げました。また、肩肘張らずに比較的容易に出来る息の長い支

援の活動にするためには、支援する側に多大な負担がかからない方式、できれば参加者が楽しめる形が良いというのもこの会を始めた理由でした。とはいえ、時が経てば、

日常の忙しさのために、ほとんど参加者が減少していくのも仕方ないことです。とはいえ、この会はいくつかの「遺産」を残したのではないかと自負しております。ひとつは、この会で被災地の話をすることで、支援の小さな輪ができたことです。また三陸の海鮮や東北の地酒にも詳しくなったこと、おそらく自宅でも三陸海鮮や東北地酒を消費されているであろうこと、他の人たちにPRもしてくれたであろうことなどです。

できれば、こうした「遺産」が、どんどんと拡大して、さらに三陸海鮮と東北地酒の消費が伸びていくことを期待して、この会を閉めたいと思います。あらためまして、長い間、ありがとうございました。





東北地酒ラインアップ(日本橋)

まことに残念ながら、最近参加者が徐々に減少しつつあり、ときには開催が危ういと感じられるケースも発生してまいりました。何とか参加者をかき集め

て、それなりの人数に整えて来ましたが、毎回ひやひやの開催となっております。3・11から五年以上の時間が経過してまいりますので、関心が薄れていくのは、あ

**うまい東北地酒と三陸海鮮の会**  
**第23回 三陸酒海鮮会・渋谷**  
**第20回 三陸酒海鮮会・日本橋**  
**残念！日本橋は次回が最終回**



豪華な刺身(渋谷)



初牡蠣(渋谷)

る程度仕方のないこととあきらめておりました。そんなことで、とうとう、日本橋開催の方は、次回の十二月一日を最終回として、一応の終止符を打つこととなりましたことをここに報告いたします。

ほぼ二カ月弱に一回の割合で二十回続けてまいりましたので、足かけ四年にも

なります。

これまで、お忙しいなかを、都合をつけてお集まりいただいた参加者の方々に、この紙面を通して厚く御礼申し上げます。

渋谷の方は従来どおり続行いたしますので、みなさま、どうぞお気軽にご参加ください。

## 第26回 水産業再興のための料理レシピ紹介

秋の味覚

### 【秋鮭ときのこの牛乳とろろ焼き】

長芋と秋鮭の料理



完成品

西京漬が生鮭を味よく仕上げてくれます



郷土料理愛好家  
松本由美子氏

#### 一簡単レシピ

【材料】 生鮭 2切れ しめじ 1/2パック 西京漬 50g 青のり 適量  
ごま油 少量 片栗粉 大2 牛乳 大3

- 【作り方】
- ①生鮭は、1切れを半分に切る。ウロコをきれいに取り、水気を拭いて西京漬(市販)に一晩漬け込む。
  - ②長芋をすりおろし、牛乳、片栗粉と合わせ塩少々をふっておく。(芋の粘りにより量を調節)
  - ③ごま油をぬった耐熱皿に水気を切ったしめじと鮭を並べる。グリルで6分焼きます。
  - ④鮭の表面に焼き色が付いたら、とろろをかけて3分~5分焼きます。
  - ⑤焼き上がったら、青のりをたっぷりかけます。

# 再発見! 東北の発酵食品

## その良さが見直される発酵食品

発酵食品が見直されている。納豆、味噌、ヨーグルトなどの健康に対する効果に注目が集まり、改めて発酵食品の良さに注目が集まっているのである。人類と発酵の歴史は古い。現在確認されている最も古い発酵食品は今からおおよそ8000年前まで遡るといわれる。日本でも縄文時代には酒が造られていたということなので、かなり長い付き合いをしているわけである。

このように発酵食品には長い歴史があり、それだけ人々の生活と密接なつながりを持っていて、いわば身の回りに当たり前にあるものであっただけに、その良さが顧みられることはあまりなかったが、最近食に関する研究が進むにつれて発酵食品の効能が少しずつ明らかになってきており、折からの健康ブームにも乗って、発酵食品をつくる菌を積極的に取り入れようというこで、「菌活」なる言葉まで生まれている。

我が国における発酵の第一人者で東京農業大学名誉教授の小泉武夫氏によれば、発酵食品の四大特徴は、①保存が利くこと、②栄養価が高まること、③独特の味と匂いがつくこと、④究極の自然食品だということ、とのことである。こうした特徴を日本人は古来、上手に活用してきたわけである。

## 東北の発酵食品

ここ東北はとりわけ発酵食品が多い。中でも漬物は他地域を圧倒する豊富な種類がある。それは冬に雪に閉ざされる地域が多く、作物が取れないために保存食

を造らざるを得なかったという地域事情がある。食物は発酵させることによって長期保存が可能になる。浅漬けのように発酵させない漬物もあるが、漬ける食材に元からついている乳酸菌を使って乳酸発酵させる漬物や、麴を添加して発酵させる漬物、味噌や醤油や酢など発酵させて造ったものを使う漬物など、漬物と発酵は切っても切れない関係がある。

「塩麴」が話題になったことがあったが、これなどは会津の三五八漬けがその原型であるとされる。三五八漬けは、塩と米麴と米を3対5対8の割合で混ぜた漬け床でつくることからその名前がある。

日々の食生活に馴染み深い味噌は、同じ東北でも地域によって中身が異なる。例えば、津軽味噌は米麴が少なく塩分の多い長期熟成の赤味噌、逆に秋田味噌は米麴歩合が高く色合いの濃い長期熟成味噌、仙台味噌は大豆と米の旨みが活かされたやわらかく長期熟成の赤味噌と、それぞれに特徴があり、味も異なる。

海産物の発酵食品が多いのも特徴で、塩辛と言えはイカの塩辛が東北でも盛んに造られるが、それ以外にもニシンなどで造られる魚の塩辛である切り込み、ハタハタと米麴と一緒に発酵させた熟鮓の一種である秋田のハタハタ寿司、やはり秋田でハタハタを塩で発酵

させて長期熟成させた魚醤であるしょつづる、サケとイクラを米麴で漬ける福島の中通りの紅葉漬、身欠きニシンと山椒の葉を交互に重ねて、醤油、砂糖、酢などでつくったタレに漬けた福島の会津のニシンの山椒漬などがある。

納豆も東北には欠かせない食品である。これについても、東北各地に地元の納豆があるが、それだけでなく、納豆菌で大豆を発酵させた後、さらに麴でも一度発酵させた納豆が山形と福島にはある。これもまた通常の納豆に輪をかけて美しい納豆である。ユニークなものとしては「しょうゆの実」がある。これは醤油の製造工程で出る搾りかすに麴と塩を加えて造る山形の発酵食品である。

そうそう、もちろん酒類も発酵食品である。日本酒、ワイン、ビール、シードルなど、多種多様な酒類が東北では楽しめる。米、果物、ホップなど、材料となる農産物が豊富に採れる恩恵である。ヨーグルトは東北の伝統的な発酵食品に比べるとまだ歴史は浅いが、放牧して育てた牛の牛乳から造ったり、ジャージー種の牛乳から造ったり、低温で殺菌した牛乳で造ったり、複数の乳酸菌で発酵させたり、温泉熱を利用して発酵させたり、東北の各地域で様々な工夫を凝らした美味しいヨーグルトがある。

## 地域おこしと発酵食品

千葉県神崎町は、江戸時代から発酵食品で栄えてきた歴史があるようである。そうした歴史を踏まえて造られた「道の駅発酵の里こらさき」には、「発酵市場」があり、発酵食品や発酵に関する情報を多く揃え、「発酵文化」を広く内外に発信すると共に、さまざまな発酵食品を販売しているが、週末などは大変な人の賑わいだという。

こうした神崎町の成功事例、発酵食品の歴史と内容では決して引けを取らないこの地域でも、大いに参考にすべきである。

もちろん、東北でも、この「道の駅発酵の里こらさき」とまではいかなくても、発酵食品を売りにした取り組みが始まっている。

宮城県大崎市では「みやぎ大崎ふつふつ共和国」を(<http://www.fufufutu-osaki.jp>)大々的にPRしている。大崎地方には多くの酒蔵、味噌蔵、醤油蔵が点在している。東北屈指の米どころであり、大豆の一大産地としても知られている。こうした豊富な食材を冬に備えて保存性を高めるためにこの地域で古くから根付いているのが発酵食品文化であった。ホームページでは、大崎地域の発酵食品、それらが食べられる飲食店などと一緒に情報提供している。

福島県いわき市では「いわき発酵の旅」を(<http://iwakihakkoutrip.com/>)打ち出している。いわき市内で発酵に関係している酒蔵、削節店、味噌醤油醸造元などを巡るツアーも提案している。自宅できょうな発酵食品のレシピも公開している。

また、福島市では「ふくしま発酵文化研究会」が(<http://www.f-kankou.jp/>)活動している。高齢化率と要介護率が上昇を続ける中、「発酵による健康・長寿のまちふくしまを目指す」ことを標榜し、食育セミナーや発酵食品づくり、先進地視察交流、全国ネットワークとの交流などを行っている。

東北で醸造文化が最も盛んな地域はどこかと聞かれれば、私は秋田県と答えた。先に紹介したハタハタ寿司やしょつづるなど、この地域ならではの発酵食品がたくさんある。その秋田県では「秋田・茨城発酵食品イベント」というイベント(<https://www.facebook.com/natofesta/>)が開催されている。今年は納豆をテーマに、秋田県が誇る自慢の発酵食品を、もともともと多くの人に知ってもらい、食べてもらいたい!という思いを実現するために、納豆では秋田と並んで有名な茨城にも協力を仰いで開催している。

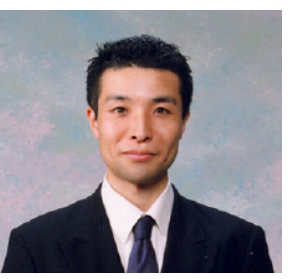
秋田県南の横手市には「よこて発酵文化研究所」(<http://www.city.yokote.jp/tokusetsu/hakkou/index.html>)がある。ここは横手地域に根ざした「発酵」をキーワードに、市民民間企業、行政が連携したまちづくりを行っている。特筆すべきはその開始時期で、平成16年3月に発足したというから、既に12年以上の歴史を持っている。そうかと思うと、秋田には「秋田今野商店」という(<http://www.akitakonomo.co.jp/>)店がある。酒造用の麴を始め、味噌醤油用の麴、ビール酵母、パン酵母、乳酸菌など、いわゆる種菌で圧倒的なシェアを占めている。秋田と青森に跨る世界自然遺産の白神山地からは、秋田県の総合食品研究センターがパン作りに適した「白神こだま酵母」を発見した。また、桜の名所二ツ井では桜の木から採取した酵母を用いて地ビールを醸造している。

このように、「発酵」をキーワードにした東

北各地での取り組みは既に始まっている。願わくば、こうしたそれぞれの取り組みが、単独ではなく、互いに横のつながりを密にして情報交換をしながら発酵に関する情報発信を充実させていってもらいたい。そして、「発酵と言え東北」というブランドイメージをつくれれば、各々の取り組みがさらに活きるに違いない。

## 執筆者紹介

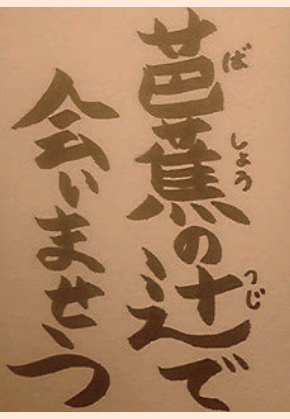
大友浩平 (おおともこうへい)  
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。  
「東北ブログ」  
<http://blog.livedoor.jp/anagmas/>



Facebook  
<https://www.facebook.com/kouhei.ootomo>



連載  
むかしばなし



第四十一話  
仙臺の燈明

賢治は驕然となった「議事堂」の中を、大勢にもみくちゃにされている渦中の男の元へ群衆を掻き分けて進んでいった。

「ナイプトニエニさんですか、あなたは。」

男は、賢治と同年代ぐらいの、がっしりした青年である。少し遠目から呼びかけられて、彼は反応する。「そうだ。私は、わかる：ジャック・ドフニ、降りる所。」

片言のようだが、日本語が話せる者が三人の他にもいたのか。彼を制止しようとする群衆の中には、小野野寺が通訳する。



奥羽現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出演し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当

寺の姿もあり、何事かナイプトニエニに向かって手や首を振り、論そうとでもしているように見える。「降りる・・・つまりそこで生きられる、と？」

小野寺がこちらを向く。「彼はあまり日本語わかりません。僕が少し教えてあげて。彼が言う、その場所とこの場所、伝承に過ぎずそれがどこかも不明なのです。」

「伝承・・・ですか。」取り押さえていた人々にやがてその身を解放されたナイプトニエニは乱れた髪や服を払い整えて、身振り手振りを加えて賢治へ何かを伝えようとしてきた。小野寺が通訳する。

「彼の身内による予言のようなもので、『我々が南の森の中に黒い星が隠れているので、天上の崖に立った時はその中心を見定め降り立て』とか・・・何の事やらですが。」

「南の、森・・・黒い、星」青年はいかにもどこかしように、通訳の息継ぎも待たずにまくし立てる。賢治はそんな彼の肩を優しく叩いた。

「ナイプトニエニさん、まずは貴殿の事を教えて下さい。」

「彼の祖先は樺太島の先住民ウイラタです。後の世代は小川と改名して日本のネリマへ移住しましたが、猛暑で身内に死者を出した事で、後により北国にあるセンダイへ移りました。」

「え、仙臺に・・・」

「だが、最終的に祖父の代で樺太に戻ったそうです。彼は自分が南樺太で出会ったウイラタの子孫ではないのか・・・その確証は得られないのかも知れなかった。ナイプトニエニは改めて語り始めた・・・世界を滅ぼした汚染は、惑星そのものを殺した訳ではないが、星は確かに沈黙を始めたのだと。惑星を眠りから覚まし、その力を呼び起こす事が、地上の放射能を除去するための近道だと。」

「惑星が、絶望・・・しているというのか。」

「彼が言うには・・・惑星と人間が交感する場所は地底にある、とか。それは地上の二つの点を結ぶ過程としての地下の道であり、このジャック・ドフニ・・・彼はこの船をそう呼ぶのですが・・・これを含め全ての船が地上に降り、それぞれの民族が地底の道を探る事で、惑星の復活を促す事ができ

る・・・その降りる地点は、今も既に汚染から守られ、安全である。」

「非科学的すぎる。全て、空想に過ぎないわね。」

トヨハがぼつさり切り捨てる。「予言した彼の身内というのにも、図書館司書である大叔母さんが、ある夜に見た夢だというのだから。」

「夢ですと！」

「喜善が立ち上がった。何か、確信めいた色が顔に広がっていく。」

「それは重要な事です。人の見た夢を軽視するとは・・・貴殿方は民族の魂を捨て去ったのか！」

喜善の剣幕に、一瞬怯むも、少女は食い下がる。「場所も特定できないのに、予言を勝手に解釈してそれに従えというのか？」

「いや、トヨハさん・・・場所ほぼ、特定されたな。」

賢治のあっさりした物言いに、少女はぼかんとする。「ここに居る喜善さんと私は、仙臺の都市に立つ同一の夢を見た・・・私も、仙臺まで降りる事を望む」

その場は静まり返り、皆一様に呆然と立ち尽くした。「センダイ、ですって？」

喜善は静かに言った。「私どもの世界・・・つまり、過ぎ去った遠い古代が、貴女方の未来ではない。」

少女は首を振る。「トヨハさん・・・貴女は、この世界にいませんんか？」

「えっ・・・」

「だって貴女は常に見守っていたのでしょ・・・あの世界の行く末。日本・・・奥羽。そして北方の大地に生きる人々の未来を。」

少女の眼は驚きに見開かれた。そして深く息を吐き、観念したように話し始める。「私は遙か昔に列島の南・・・今はもう海に沈んでいる群島からなる王国に生まれました。十三歳までの記憶は、何度死んで生まれ変わっても・・・変わらず心にあります。」

「やはり、そうでしたか？」

「あまりにも、突拍子もない話と思われるのが、怖くてね。ナイプトニエニを見ていた。」

「一一八九年、文治五年に私も、少女は食い下がる。私どもに会った事は・・・憶えておいでないわね？」

「日誌に書いてある。貴殿たちや、芭蕉・・・それに大天狗綾糟に会った事も。私たちは、一九二八年・・・昭和三年にもまた邂逅する事になるわ。まあ、言ってしまうたら邂逅にならないかも知れないけれど。」

「ほう・・・では私もは還れるね。いい事を聞いた。」

「チャンルー殿・・・イアンパヌ殿が突き合わせている怪物どもとは、一体？」

「勝負の行方はわかるか？」

「一方は天空から攻める天神・・・もう一方は地上で受ける地祇・・・いや、あれは神なのかしら？あのような者の波動を感じた事がない。天からの稲妻を受けても大方跳ね返し、割いては己の力にしているのがわかる。」

彼には、顔も皮膚も、筋肉もない・・・護摩の火で焼かれた土からなる、無数の骨で形成された不世出の戦士。人造にして神威を持つ・・・驚くべき存在だわ。」

再び夜が近づき、雨は弱まっていった。未来世界の若者・・・守衛全克の姿を借りた大天狗綾糟の元へ、峡谷に降りていった鳥たちが一斉に戻ってきた。

「水を飲んだか、子ども」鳥たちの姿が、暗がりの中徐々に変化し始めていた。この峡谷は、龍の古巣にして力の源泉・・・鳥の群れは今、大天狗の軍隊へと変貌しようとしていたのだ。

「今宵、頼朝を誅す。」

高らかに宣言する綾糟の側には、切れ長の鋭い目を輝かせた、もう一人のチャンルーがいた。呪いの発端となった、イアンパヌを元の主とするその身体には、一見して欠けた部分は見当たらないが、実はその装束の下には、女の特徴がない。性を失った個体なのだった。「さあ・・・夜になるぞ、綾糟。私がチャンルーであるうちに、事を済ませよ。」

結果に関わらず、私はお前を殺す。」

「わかつている・・・今こそ山を降り、鎌倉の侵略軍を蹴散らそうぞ。」

突然、鳥の屈強なる兵の一人が、太い声を上げた。「大天狗様！あれを・・・あれが見えますか？」

その黒い羽から飛び出す指の差すのは、東に広がる黒い宮城野の平野である。そこに、何やら不思議な光の群れが並んでいた。「十文字の灯火・・・一体、何者が点しているのだ？」

泰衡一行は夜空の下の草原に妖しく光る燈明群を認めた。「あれが・・・芭蕉の辻？」

光源が何なのかはわからない・・・ただ、人の頭の高さ辺りに、やはり頭ほどの大きさの金色の光が等間隔ですらりと一直線に並んでいた。泰衡は光の一つに手を近づけ、触れようとするが、暖かくもなく、そして全く手応えもない・・・まるで幻の光だった。

「これが、遠い未来の都・・・仙臺の光だということか？」

若が善助に問う。「石川さん、これは何ですか・・・街灯でしょうか？」

「いや・・・昭和の時代、この街道にこんな燈明はないおそろく、ある一定の期間に何らかの目的で灯されたものか・・・」

「政宗公だ。」

長里国八郎が言った。「文献で目にした事がある。このの樹どもと一緒だわ」

「別に。鞭楯から少し歩いただけ・・・それにしても、どうした事だ。そなたもあろう者が根を張ってしまおうとは。」

「結果よ。どこのどいつか知らぬが、この周囲に三角陣を張りおった・・・」

「ああ、知っている。正確にはもう一つ、三角が増えるらしいぞ。」

「何だ！天狗中將の、塩竈結界はどうなる。源氏連がもう目と鼻の先だぞ。」

「三角が六角になった時、そなたは再び動く事ができるよう・・・結界の中心がずれるからな。」

「そもそも始めの三角陣から撤去せねばならん。」

「それが、そうもいかんよ。うなのだ・・・ともあれ丹十郎よ、実の方は頂戴できるのか。」

「無論だ。しばし、会えぬのだから、饞別よ・・・たふく喰らうがいいぞ。」

「しばしというのか・・・この姿で再び会う事はあるまい。今生の別れる哉丹十郎」

ゆつくりと、樹を降りてきた少年は、実際は驚くほど大柄の偉丈夫だった。

「ならば、最後に見せてくれ・・・お前の祖・俵藤太秀郷に做つて、大百足を撃ち倒すところをな。」

「次回予告」

雷神と護法の戦いは、ナレシオンだけで終わるのか？まるで河ドラマだな・・・(おい) 次回、頼朝、窮鼠猫を囓む!!!?

「次回予告」

# シリーズ 遠野の自然 「遠野の寒露」 遠野 1000 景より



仙人池

日本中を台風が吹き荒れた今年の夏と秋だった。もうそろそろ台風も過ぎ去り、じつくりと秋の夜長を楽しめる季節の到来を願いたいものだ。  
台風といえば、かつてフイリピン近辺で発生していた台風は、近年の温暖化のせい、日本のすぐ近くで発生するため、日本に近づいても勢力が衰えない。  
強い勢力を維持したまま上陸したので、被害もとて

も大きかった。かつての台風ではなく、アメリカのハリケーンのようなであった。東北でも岩手の被害は大きかった。遠野も被害が大きかった。北海道などは、海岸の近くの20センチ以上の太さの松が軒並み倒されて、さぞや北海道民は肝を潰したことであろう。  
\*  
さて話題を転じて、今月



太神楽奉納

号は、お祭りの風景だらけにした。  
\*  
今年も筆者も公私に亘り何かと忙しく、遠野の祭りを見に行けなかった。

祭りの写真を見ていたら、ほんとに惜しいことをしたと悔やむばかりである。まことに残念である。  
\*  
せいぜい、じつくりと写真を眺めて、想像力をたくましくして、遠野の祭りを

堪能しようと思う。  
\*  
仙人池は人造湖との話であるが、ものけ姫に出てくるような印象がある。  
\*  
さんさ踊りの写真では、あのリズムカルな太鼓がこちらまで届くようだ。  
南部ばやしの鮮やかな衣装も目に沁みる。  
流鏝馬はまだ実物は見たことがない。ご対面は来年



夜神楽



さんさ踊り

になるかもしれない。  
遠野の秋の祭りは、何といても夜である。  
\*  
暗闇のなかで舞う踊りは、どれも迫力がある。  
東京圏にいとすつかり忘れてしまった暗闇があり、

その暗闇のなかに、あまり輝きすぎない明かりがあり、踊りは暗闇に溶け込みそうな印象があつて、とても幻想的である。百聞は一見に如かず。ぜひ遠野で実物を見ることをおすすめする。



流鏝馬



南部ばやし



夜間奉納

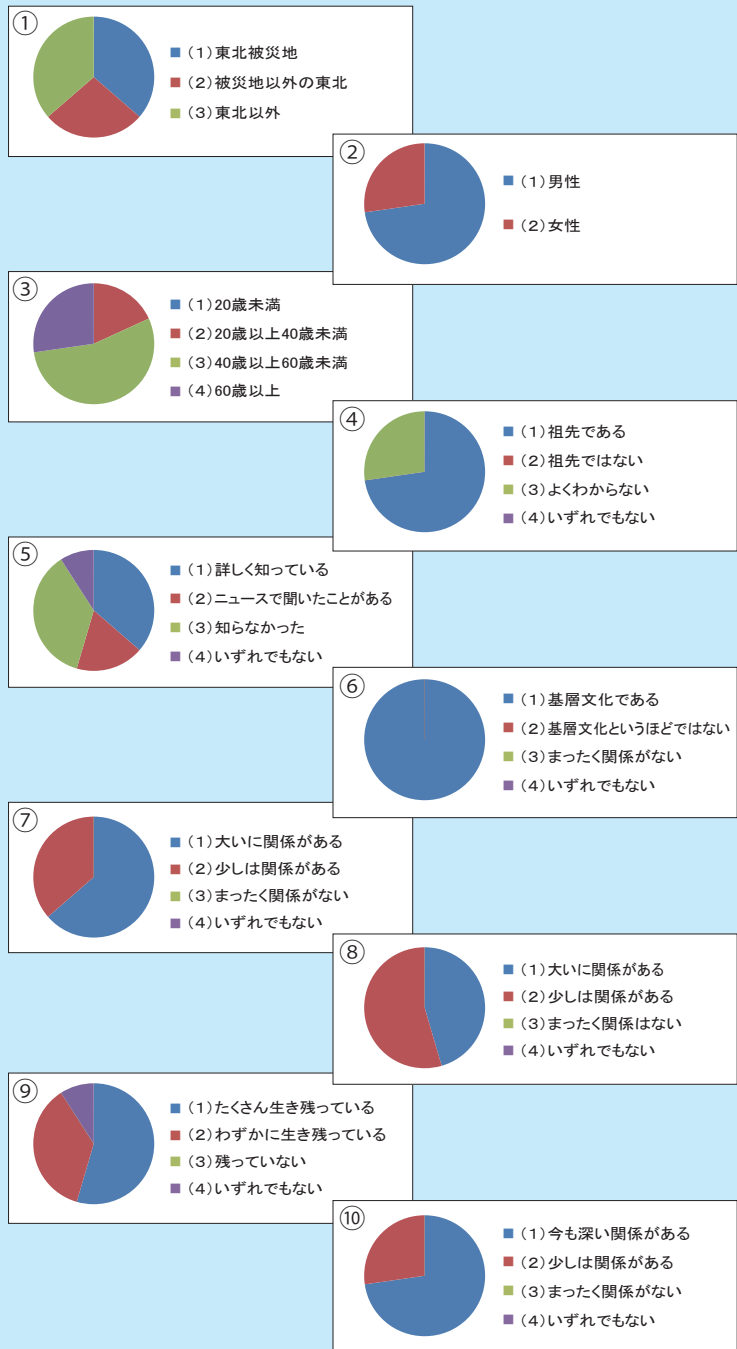


夜神楽

## 第52号 ネットアンケート集計結果

### 【縄文文化は単なる過去の遺物か？】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	4
	(2) 被災地以外の東北	3
②	性別	
	(1) 男性	8
	(2) 女性	3
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	2
	(3) 40歳以上60歳未満	6
④	縄文人は現代日本人の祖先か？	
	(1) 祖先である	8
	(2) 祖先ではない	0
	(3) よくわからない	3
⑤	3・11で多くの縄文遺跡が発見されたことを知っている？	
	(1) 詳しく知っている	4
	(2) ニュースで聞いたことがある	2
	(3) 知らなかった	4
⑥	縄文文化は日本の基層文化か？	
	(1) 基層文化である	11
	(2) 基層文化というほどではない	0
	(3) まったく関係がない	0
⑦	ものづくりと縄文文化の関係	
	(1) 大いに関係がある	7
	(2) 少しは関係がある	4
	(3) まったく関係がない	0
⑧	自然への畏怖と縄文文化の関係	
	(1) 大いに関係がある	5
	(2) 少しは関係がある	6
	(3) まったく関係はない	0
⑨	縄文文化は今も生き残っているか？	
	(1) たくさん生き残っている	6
	(2) わずかに生き残っている	4
	(3) 残っていない	0
⑩	東北地方と縄文文化の関係	
	(1) 今も深い関係がある	8
	(2) 少しは関係がある	3
	(3) まったく関係がない	0
	(4) いずれでもない	0



#### 回答者全員が縄文文化は日本基層文化と認識

今回は「縄文文化は単なる過去の遺物か？」であった。東北復興と縄文文化というあまり見かけない切り口のアンケートであり、筆者は回答を見るまでドキドキしていた。回答者は十一名の祖先か？」は「祖先である」が約72.7%。意外だった。⑤「3・11で多くの縄文遺跡が発見されたことを知っている？」は、「詳しく知っている」と「知らなかった」が同数で約36.4%。⑥「縄文文化は日本の基層文化か？」は、全員が「基層文化である」と。これも意外だった。

⑦「ものづくりと縄文文化の関係」は、「大いに関係がある」が約63.6%で、「少しは関係がある」が続く。⑧「自然への畏怖と縄文文化の関係」は、「少しは関係がある」が約54.5%で、僅差で「大いに関係がある」が続く。

⑨「縄文文化は今も生き残っているか？」は、「たくさん生き残っている」が約54.5%で、「わずかに生き残っている」が続く。

⑩「東北地方と縄文文化の関係」は「今も深い関係がある」が約72.7%で、「少しは関係がある」が続く。もっと縄文は忘れられているかと思っていたが、まったく違っていることに驚き、自然に頬が緩んだ。

#### 編集後記

2020東京オリンピックのボート競技場問題が騒がしい。予算問題で宮城県登米市に移転しようとしたら、反対派がさまざまな屁理屈をこねて反対する。屁理屈を越えているとしか思えないようなものであつてまことに噴飯ものだ。

例えば、国際放映のため、東京から登米まで地下ケールを通さなくてはならないとの理屈など、いったいどの時代の人かとあきれてしまう。

こうした様子を見ていると、この国の将来がほんとに危ういと感じる。マスメディアも、こんな茶番劇に対して皮肉のひとつも言えないようだ。何のためのマスメディアなのかも思うし、本来の目的を完全に見失っているのではないかと疑いたくなる。

先の戦争時のマスメディア対応が、よく大政翼賛会的だと批判されるが、何だかそれ以上に体制寄りと感じるのは筆者だけだろうか。大人の社会において、けじめとかルールとかがきちんとして守られないと、それはすぐ次世代に敏感に伝わる。最近の子供たちの犯罪に、そうしたのを感じてしまふのも筆者だけだろうか。もっと毅然として、間違っていることに対して間違っているかと胸を張って言い、次世代の模範となるべきではないのか、と思う。

#### 「東北を世界に！」プロジェクト募集

- プロジェクト募集要領
- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由(プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ 〆切はとくに設けません

#### 「東北を世界に！」プロジェクト募集

- 連絡先/企画提出先  
(郵送) 〒207-0005 東京都東大和市高木3-315-1 ホームタウン宮前2-2 電子タプロイド新聞【東北復興】宛  
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp
- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)
- たくさんのご提案をお待ちしています